

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善等
<p>1 教職員は、多様な生徒・保護者に対応できるよう様々な研修等で指導力を向上させ、生徒の「確かな学力」の定着を目指す。</p>	<p>① 研修等で生徒理解を深め指導力の向上を目指す。また少人数授業でのきめ細かな指導を行い「確かな学力」の定着を図る。</p>	<p>授業内容が理解できていると思う生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p><b>B</b> 88.9%</p>	<p>興味関心を喚起しながら、基本的な学習事項の定着を重視して丁寧な指導を行っている。また、多様な生徒に対して個々に十分に配慮しながら、学習指導にあたっていることで、成果をあげている。次年度も個々の生徒の状況を把握しながら、基礎基本の定着を目指した丁寧な指導に努めたい。 (今年度中間期88.0%)</p>
		<p>様々な研修等を積極的に活用し、指導力向上ができたと答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p><b>A</b> 96.3%</p>	<p>教職員各自が自己の課題について認識し、研修等に積極的に参加して指導力の向上に繋げている。次年度も多様な生徒に対して、効果的な指導ができるように、研修や情報交換の機会を積極的に設けていきたい。 (今年度中間期92.8%)</p>
	<p>② 主体的・対話的で深い学びを目指す。</p>	<p>自分の考えや意見を意識して発言や文章で表現しようとしていると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p><b>B</b> 83.6%</p>	<p>学校での教育活動全体を通して、「意見」や「発言」の機会をこれまで以上に設けることで、成果が上がっている。次年度も生徒が主体的に活動できる機会を積極的に設けていきたい。 (今年度中間期79.9%)</p>
	<p>③ 生徒の興味・関心・理解度を向上させる工夫を行う。</p>	<p>先生方は絵や写真の提示や一人一台端末を効果的に使うなど、教え方を工夫していると答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p><b>B</b> 90.4%</p>	<p>ICTを効果的に活用して、絵や写真、図を用いて分かりやすい授業となるように心掛けていることで、成果をあげている。各教科でICT機器の利活用について定期的に研修を行い、次年度もさらなる工夫改善に努めていきたい。 (今年度中間期90.5%)</p>
<p>④ 授業規律の徹底を図り、積極的に授業に参加するようにする。</p>	<p>授業に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p><b>B</b> 93.3%</p>	<p>多様な生徒の状況に配慮しながら、生徒が主体的に授業参加できる工夫を行う。そのための積極的な授業改善に取り組むことで、成果をあげている。さらに、次年度も生徒が主体的に参加しやすくなる工夫を行い、効果的な授業改善に努めたい。 (今年度中間期93.4%)</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>			<p>・多様な生徒に対して十分に配慮しながら指導にあたっていることで、生徒は充実した学校生活を送れていることはありがたい。今後、学校生活の多くの場面で主体的に活動できる機会を設けて欲しい。 ・多様な生徒の相談や悩み等に対応するために、カウンセラーなど外部機関も積極的に活用して対応してはどうか。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法</p>			<p>・個々の生徒の状況を把握しながら、学校での教育活動全体を通して、「意見」や「発言」の機会をこれまで以上に設ける。また、生徒の主体性を育ていくために、外部機関との連携も積極的に行う。</p>	

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善等
<p>2 生徒会活動や部活動を充実させ、基本的な生活習慣の確立と社会性の向上を目指す。</p>	<p>① 生徒会を中心に全教職員で働きかけ部活動の活性化を促す。</p>	<p>生徒の部活動への加入率が A 50%以上である B 45%以上である C 40%以上である D 40%未満である</p>	<p>D 33.8%</p>	<p>不登校経験者の割合が年々上昇しているが、多くの生徒はアルバイトを通して社会性を育んでいる。そのため、部活動加入率は低下している。しかし、加入している生徒については、高い意欲を持ち熱心に活動し、バドミントン部と軟式野球部で全国大会出場を果たした。次年度は、部活動説明会などで、部活動の魅力の発信を工夫し、加入率を上げていきたい。 (今年度中間期29.9%)</p>
	<p>② 来校者及び教員に対してしっかりと挨拶ができるようにする。また、地域の方々と交流する機会を増やし、社会の一員であることを体感させる。</p>	<p>来校者及び職員に対し自らすすんで挨拶をしていると答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>C 76.4%</p>	<p>対人関係が苦手な生徒や大人しい生徒が年々増加している。そこで、積極的に教職員から挨拶することで、コミュニケーションの大切さを再認識させている。次年度も自然に元気よく挨拶ができるように、継続的な指導を行うことで成果改善に繋げていきたい。 (今年度中間期74.6%)</p>
	<p>③ 学校行事等に積極的に参加させることにより、生徒同士が共同で取り組む機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	<p>さまざまな行事に積極的に参加し、友人との関係を深めることができたという生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>B 81.9%</p>	<p>対人関係が苦手な生徒が多いため、自ら進んで集団に交われない生徒が多い。授業や行事を通して、仲間意識やコミュニケーションが取りやすい環境構築に向け、教職員が積極的に関わったことで、成果が上がっている。次年度も対人関係が苦手な生徒に、教職員が積極的に関わりコミュニケーション能力の向上を図りたい。 (今年度中間期70.1%)</p>
	<p>④ 教育活動を通して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境作りや、自己肯定感が育めるよう、校内環境の充実を図る。</p>	<p>いじめ防止の取組の中で、弱いものいじめや卑怯な振る舞いを許さない指導を常に心がけていると答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>A 100%</p>	<p>授業や行事を通して、生徒とのコミュニケーションの機会をできるだけ持ち、教職員間で生徒の情報交換を綿密に行っている。次年度もいじめの未然防止やいじめを見逃さない学校づくりに邁進したい。 (今年度中間期100%)</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>			<p>A 95.9%</p>	<p>生徒はいじめは許されないことだということを十分に認識している。次年度も相手の気持ちを押し量った行動がとれるように、学校の教育活動全体を通して理解を深めていきたい。 (今年度中間期94.0%)</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法</p>			<p>・部活動に取り組む生徒が少ない。部活動は、教育活動と人間形成において、とても大切な役割を担っている。何とか取り組む生徒が増えるようにして欲しい。</p> <p>・多様な生徒がおり登校するだけで精一杯の生徒も多くいる。その中で、部活動の良さをアピールすることで、入部する生徒が増えるようにしていく。</p>	

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善等
<p>3 授業や進路行事、個人面談等を通して、早い時期から進路意識や自己肯定感を高め、望ましい勤労観、職業観を育成し、進路実現を目指す。</p>	<p>① 授業や進路行事、個人面談等の様々な教育活動を通して、進路意識や自己肯定感の向上や望ましい勤労観・職業観を啓発する。またキャリアパスポートの活用により進路目標を決定させ、その実現に向け意欲的に努力するよう働きかける。</p>	<p>授業や進路行事・個人面談等を通して、生徒の進路意識や自己肯定感を高める働きかけの工夫を行った教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>A 96.3%</p>	<p>学校全体で生徒の自己肯定感を高めながら、進路意識の向上に努めたことで成果をあげている。次年度も個々の生徒に応じた働きかけを通して、更なる進路意識の向上を目指した取り組みを実施していきたい。 (今年度中間期100%)</p>
		<p>授業や進路行事・個人面談等を通して、進路意識や自己肯定感が高まったと答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>D 65.3%</p>	<p>進路意識が低い生徒が多いが、多様な生徒の状況を考えると進路指導に際しての強い指導は難しい。しかし、次年度も生徒が自分の能力や適性を捉えられるよう自己理解を促し、進路意識向上に継続的に取り組み、成果をあげていきたい。 (今年度中間期63.4%)</p>
	<p>② 一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。</p>	<p>「先生は自分のことをよく理解して、進路について適切なアドバイスをしてくれる」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>C 75.7%</p>	<p>コミュニケーションや対人関係を苦手とする生徒が多いため、教員側からの様々なアプローチを行っている。次年度も一方的な意見や指導でなく、多様な生徒への理解を通して、適切な指導ができるように教職員間で情報交換を密にして、成果を上げていきたい。 (今年度中間期76.1%)</p>
		<p>進学・就職を希望している卒業生の進路決定率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>B 89.1%</p>	<p>様々な進路行事を通して個々の生徒の適性と希望を捉えながら、進路実現に向けて取り組んだ。進学・就職を希望している生徒の多くが進路先を決定する事が出来た。今後も生徒が主体的に自己の進路実現に向けて取り組めるように、学校全体で努めていきたい。 (昨年度最終期93.8%)</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>			<p>・進路や日常の相談ができる先生について、アンケート結果の割合が低いようであるが、多様な生徒が相談しやすいように取り組んで欲しい。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法</p>			<p>・生徒と教員の年齢差が理由の一つであるが、それを埋める雰囲気にして、生徒が気軽に相談できるような環境を構築していく。 ・急速に進む社会情勢や生徒の多様性に対応できるように、教員も視野を広げ、研修等も活用しながら、生徒との良好な関係を築き、成長を育む体制を取るようにする。</p>	

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松北高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善等
4 業務の精選および効率化を進め、ワーク・ライフ・バランスを推進する。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	仕事に優先順位をつけ、業務ごとにスケジュール管理を的確に行い、効率化を図っている教職員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A 100%	各課・各学年間での連携を通して、効率化への意識改革を行うことで、成果をあげている。次年度も、業務効率化に向けて、体系的な組織管理を行っていききたい。 （今年度中間期100%）
		会議や学校行事等の精選、効率化によって生み出された時間は、他の業務に当てず、生徒や保護者と向きあう時間にあてている教職員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	B 88.9%	会議や行事の効率的運営により、生徒や保護者と向き合う時間確保に努めている。しかし、一部の教職員に業務が集中したため、評価は低下した。次年度は業務の平準化を念頭においた効率的な運営を意識した組織作りを行っていききたい。 （今年度中間期96.5%）
学校関係者評価委員会の評価			・さらに、生徒が充実した学校生活を送れるように、先生方で協力して学校教育を進めて欲しい。	
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善方法			・教員同士が協力して取り組み、個々の生徒の多様性に配慮しながら、生徒の可能性と能力向上に努める学校となるようにする。 ・管理職が中心となり、教職員の体調に留意しながら、生き生きとした職場環境の構築に取り組んでいく。	